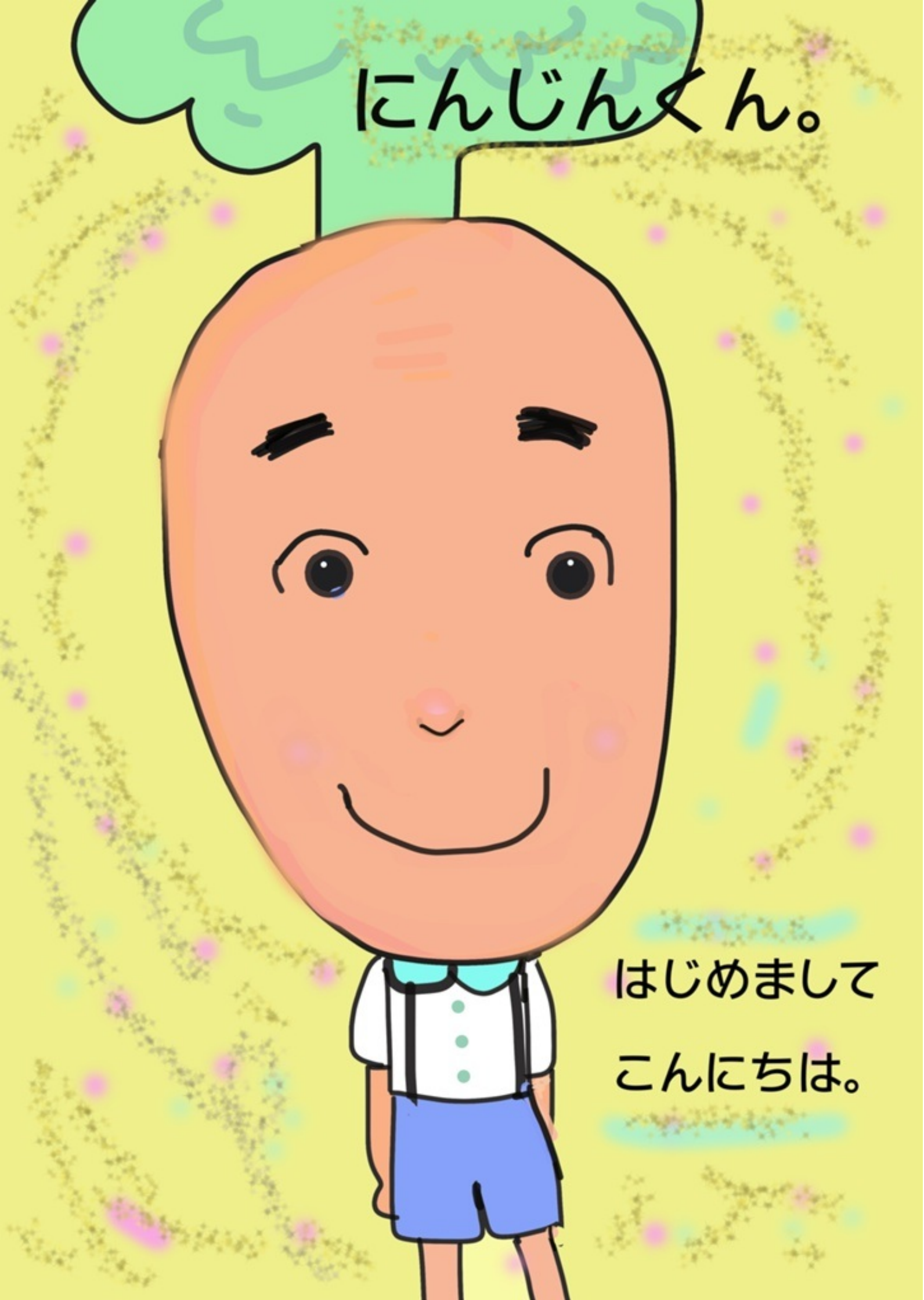
にんじんくん。
はじめまして
こんにちは。

君と友達になりたいんだ。

夏休みになりました。

たかしくんは六歳の男の子。毎日、友達と遊びに行ったり、家でゲームをしたりして

ぐーたらと暮らしていました。

ママには「宿題は？」と聞かれますが、しらんぷり。宿題は夏休みが終わる三日前に終わらせるのが

たかしくんなのでした。

ある日、ぐーたらとしていたら、にんじんのような子供が部屋に居ました。

「やぁ、僕はにんじんくん。君とお友達になりたいんだけど、なってくれるかい？」

たかしくんは首をよこにふって

「いやだよ。ぼく、人参って大嫌いなんだ。カレーに入ってても全部よけてるもん」

にんじんくんは驚いて

「えぇ〜ひどいなぁ。じゃあこれから僕のこと知ってくれよ。僕はたかしくんが大好きなんだ」

たかしくんはすごくいやそうな顔をして、「ええ〜っにんじんに好かれてもなぁ・・。どっかに行ってくれよ」

にんじんくんはすました顔で「僕のことキライって言わなくなるまで、ずーっといるもんね」

たかしくんは「へんなやつだなぁ・・」とあきれていました。

それから、にんじんくんとの共同生活が始まりました。

にんじんくんはたかしくんを一生懸命遊びに誘います。

「たかしくん。お外で一緒にサッカーしようよ！！」

「いやだよ。ぼくはこれからとなりの家のよしくんと虫取りに行くんだ」

にんじんくんは少しさみしそうな顔をして

「そう。じゃあ僕はお留守番しているね」

「ふん」

次の日のこと。

「たかしくん、今日は僕とも虫取りに行こうよ。僕虫取りは得意なんだ」

たかしくんは「いやだよ。今日はクラスのみんなとゲーム大会するんだ。にんじんくんはついてきちゃだめだよ。」

にんじんくんは残念そうにしていました。

にんじんくんは一生懸命たかしくんと仲良くしようとしますが、たかしくんはつっけんどん。

にんじんくんは「じゃあ僕はお外行ってくるね」

たかし「はいはい」

とぼとぼとにんじんくんは出かけてしまいました。

たかしくんは家で一人でゲームしていました。

みんなで大会するというのはたかしくんのウソなのでした。

（あのにんじん、いつまでいるんだろう・・。ようし、暇だし、にんじんくんのあとをつけてみよう）

面白半分でたかしくんはにんじんくんのあとをおうことにしました。

（あっいたぞ）

にんじんくんは鼻歌を歌いながら一人で散歩していました。

「♫♪～～～～」

そしてふと足が止まりました。

にんじんくんの足元には誰かが捨てたゴミが落ちているのでした。

「あれっごみが落ちているぞ。せっかくきれいな川が流れているのに

かわいそうだな」

といって、にんじんくんはそのごみを拾って、ゴミ箱のなかに捨ててあげました。

すると、通りかかったおじいさんに「わぁ、若いのにえらいねぇ。わしも見習わなきゃなぁ」

と褒められました。にんじんくんはにっこり笑って「ありがとうございます」と言いました。

たかしくんはキライなにんじんくんがほめられて面白くありません。

「ようし。にんじんくんの弱点を見つけてやる。」たかしくんはにんじんくんを見張ることにしました。

ところがどうでしょう。

にんじんくんは困っている人がいたら手を貸してあげ、泣いている子がいたらやさしく慰めてあげ

ときには、面白い顔をして笑わせたりして、周りのみんなを幸せにしているではありませんか。

それを見ていたたかしくんは自分が恥ずかしくなりました。

「にんじんくんって思いやりのあるいい子だったんだなぁ。よく知りもしないでキライっていって

わるかったなぁ・・」

たかしくんはにんじんくんに歩みよっていいまいした。

「にんじんくん、キライって言ってごめんね・・」

にんじんはにこっと笑って

「ううん、いいんだよ。僕はたかしくんが大好きだから」

たかし「ぼく・・にんじんくんと友達になりたい。いいかな」

「もちろん！！」にんじんくんは思いっきり喜んでいました。

それから、たかしくんとにんじんくんはだいのなかよしになり、

一緒に人のために自分ができることをして周りの人を笑顔にして幸せにしていました。

そんなたかしくんは前よりももっと自分も幸せになっていたのでした。

おわり。

にんじんくん。

http://p.booklog.jp/book/100756

著者 : aoi
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/kumonosu/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/100756

ブクログ本棚へ入れる
http://booklog.jp/item/3/100756

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社ブクログ